

(様式6)

1. 第三者評価結果概要表

作成日 明治33年1月0日

【評価実施概要】

事業所番号	2870101413		
法人名	社会福祉法人 鷲園		
事業所名	グループホーム御影		
所在地	兵庫県神戸市東灘区御影石町1-2-18 (電話)078-822-5620		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年5月13日

【情報提供票より】 (20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 17人, 非常勤 8 人, 常勤換算	23.4

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 0 2~4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,900 円	その他の経費(月額)	43,800 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	140 円	昼食	320 円
	夕食	円	おやつ	170 円
	または1日当たり	0 円		

(4) 利用者の概要 (2月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	1 名	女性	25 名
要介護1	4	要介護2	7		
要介護3	10	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83.5 歳	最低	94 歳	最高	66 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲南病院 梅村歯科医院
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

暖かく柔らかい色調の建物2~4階部分にあるホームで、併設施設の特別養護老人ホームやデイサービスセンターの職員と共に理念の共有・浸透を図り、日常のケアの中での理念の具現化を目指している。ホーム内のゆったりとした共有空間は、入居者が居心地よく潤いのある時間が過ごせるよう彩りのある空間を大切にすると共に、温度・湿度のこまめな調節を行い、更に各ユニット毎に家具や衝立・ソファの位置の検討や危険防止の為の工夫等、一人ひとりの心身機能の状態に応じた環境の整備がなされている。入居者の言葉や表情から「本人の思い」を汲み取り、家族との連携のもとで、その人のペースに合わせたその人らしい暮らしの支援を心掛けている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>評価結果は職員全体で確かめ改善点は課題項目の中で検討するよう取り組んでいる。改善結果として、日々のアクティビティの内容が充実しボランティアの協力でクラブ活動も定着してきた。また、入居者それぞれの介護計画を策定し、家族への交付と説明・同意の確実な実施が出来た。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>職員は評価の意義や活用について理解し、自己評価は評価項目にそって職員一人ひとりが振り返り、個々の課題を明確にしていく機会として定着している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回の開催で、ホームの現状・外部評価・自己評価・医療連携体制加算等を報告する以外に認知症についての講演会・会食・地域の協力を得た防火訓練等工夫された開催となっている。会議内容についてもアンケートの実施等を試み積極的な働きかけがある。地域包括支援センターとの交流で地域高齢者の現状や制度の説明等情報提供があり、ホームの質向上のための連携が継続している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>家族の来訪時や電話・電子メール等で入居者の状況を報告し、毎月入居者の様子を定期的に家族に送付している。苦情相談窓口の案内や苦情等の受け付けカード・意見箱の設置で、家族が率直に意見を表せる機会がある。運営推進会議で家族が気軽に意見を出せるよう働きかけている。電子メール等での家族の意見等にも苦情報告書を作成し適切に対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>月1回開催の「かがやきサロン」に入居者の参加があり地域交流が継続している。運営推進会議に民生委員や自治会長の出席があり地域の情報提供がある。地域の夏祭りでの協力関係が継続し、ホーム行事への参加・協力もありホームへの理解が深まっている。書道のボランティアの定期訪問があり、その他のボランティアも不定期ではあるが協力を得ている。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人が人間としての尊厳を持って、家庭や地域の中でその人らしい生活が送れるように支える」の理念を日常のケアの拠りどころとし、理念に沿って具体的な行動指針として「マインド」を掲げ実践につなげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿って年間や月ごとに課題を設定し、理念がケアに反映されているか振り返る機会としている。新人研修で理念への理解を深める取り組みがあるとともに、中途採用の職員に対してもOJTの導入により浸透を図っている。職員は理念・マインドが書かれた携帯カードを常に所持し、意識して日常の業務に取り組めるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に1回開催される「かがやきサロン」に入居者の参加があり地域交流が継続している。運営推進会議に民生委員や自治会長の出席があり地域の情報提供がある。地域の夏祭りでの協力関係やホーム行事への参加・協力もありホームへの理解が深まっている。書道のボランティアの定期訪問の他ボランティアも不定期ではあるが協力を得ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果は職員全体で確認し、改善点については月々の課題項目の中で検討していくよう取り組んでいる。自己評価は評価項目に沿って職員一人ひとりが振り返り、個々の課題を明確にしていく機会として定着している。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の開催となっており、ホームの現状・外部評価・自己評価・医療連携体制加算等を報告する以外に認知症についての講演会・会食・地域の協力を得た防火訓練等も実施している。次年度に向けた会議内容についてアンケートを実施する等積極的な働きかけが見られる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保険者である市との交流については、積極的な働きかけはないが、運営推進会議に参加している地域包括支援センターとの連携にて地域高齢者の現状や制度の説明等情報提供があり、ホームの質向上のための協働関係がある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時や電話・電子メール等で入居者の状況について報告していくように努めるとともに、毎月の入居者の様子を定期的に家族に送付している。職員の勤務体制や異動については運営推進会議で伝えるよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居説明時にホームや外部の苦情相談窓口について説明し、「苦情・要望・意見受付カード」や意見箱の設置により家族が率直に意見を表せる機会を提供している。運営推進会議に多くの家族が参加し意見を出し合えるよう働きかけている。電子メール等での意見等にも迅速に対応し、苦情報告書作成のもと職員間で情報共有している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の勤務体制はユニット毎に固定化している体制ではないが、入居者との馴染みの関係が保てるよう入居者の情報の共有化を図り、職員の異動や退職時には勤務体制の調整を行い、入居者へのダメージを少なくするよう努めている。運営推進会議にて職員の異動については家族等へ報告するよう取り組んでいるが、入居者・家族の不安・不満解消への対応がまだ充分とはいえない。</p>		<p>職員との面談の機会を増やし、ストレスや悩みの把握と軽減に努めるなど離職を少なくするよう働きかけるとともに、離職や異動に対する入居者や家族の思いを把握し、不安等への改善策の検討を期待する。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に関しては職員への情報提供を積極的に行い、職員のキャリアに応じて受講を勧め、内容に応じて受講料等の支援も行っている。受講後は報告書による伝達研修を実施し職員間で情報共有している。感染症対策委員会・身体拘束廃止委員会・事故対策委員会を設置し、定期的に勉強会等を実施している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センターの協力により区内のグループホーム連絡会の設立に至ったが、定期的な交流や連携の継続が出来ていない。</p>		<p>連絡会の定期的な開催が望まれると共に、職員間での交流として交換研修、ホーム間での見学会等の実施が期待される。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には利用者・家族と自宅や入院先等で面談し、利用者の視点に立った暮らしができるよう入居前のホーム見学を勧めている。徐々に生活に馴染め安心して利用してもらう為に、家族の協力を得ると共にショートステイ活用の検討もある。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居時の面談や日常での会話等で本人の関心や意向を把握し、その人らしい暮らしが継続できるよう支援している。ボランティアの協力のもとでのアクティビティや、配膳・洗濯物たたみ等日常での役割の場面で、職員と共に教えあい学びあい共に楽しむ時間を大切にしている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時等に本人の今までの生活環境、身体状況等をセンター方式活用にて確認するとともに、今後の暮らしへの要望や意向を把握し記録している。家族の協力を得ながら、日常的になにげない本人の表情や言葉からの思いや気付きを行動観察記録に残し、職員間で情報を共有している。誕生日には本人・家族と相談しながら、本人主体の企画が実現できるよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者・家族との面談や「暮らしの情報シート」を参考にカンファレンスで検討し、入居者のニーズに沿った本人主体の介護計画を立てている。作成後の入居者・家族への説明時に家族の意見や要望を伝えてもらえるよう配慮している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画はケアカンファレンス内で検討し、定期的には3～4ヶ月で見直している。また入居者の状態変化や家族からの要望があった時は随時見直すよう取り組んでいるが、文書化が遅れる状況がある。</p>		<p>介護計画の見直し時は、計画の文書化と家族への交付が確実にできるよう取り組むことが望まれる。入居者の体調の変化への早期対応や計画にそったケアが日常実施できているか確認する為に、1ヶ月に1回程度の計画の振り返りや検討が望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算で24時間体制での入居者の健康管理を行っている。病院等への入退院時の送迎や入院中の洗濯物管理等の支援を行っている。地域での選挙の投票について付き添う等、特別な外出への支援は状況に応じて行っている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診については本人や家族の意向を重視し、かかりつけ医の往診を受け入れ、受診状況については職員は担当医と情報交換し連携が取れている。また状況に応じて提携医の協力や24時間オンコール体制にて迅速な対応も可能である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の重度化や終末期のケアについてホームの方針を文書化し、家族に説明し同意を得ている。入居者それぞれの個別の方針について、担当医と職員は連携が取れるよう随時相談していく体制を整えているが、現在までに終末期ケアの事例はない。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人の理念やマインドの考えのもと、職員は入居者を尊重し個々の入居者の視点に立って、プライバシーに配慮した対応や言葉掛けを心掛けている。前誘導による排泄介助や食事の食べこぼしへのサポート等はさりげなく支援している。日常での記録書類の扱いに注意し、個人情報の保護の徹底に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の基本の流れの中で、食事の時間や入浴の時間等は個々の入居者のペースに合わせるよう努めている。入居時にセンター方式等による本人の今までの生活環境を把握し、今までの生活を生かしながらも、その人の現在の思いに沿った支援を行っている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>併設施設の厨房より調理済みの食事の搬入がある。盛り付け・配膳・後片付け等は個々の入居者の関心や力量に沿って手伝ってもらっている。週に1回程度は入居者の好みを聞き、食材と一緒に買いホームで調理している。毎月の給食会議で栄養士と話し合い気付きを出し合い、入居者にとって食事の時間が楽しくなる工夫を検討している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数や時間帯は個々の入居者の希望にそえるよう努めている。ADLの低下により介助が必要な入居者や機械浴の場合は日程や回数が限定されがちだが、足浴・手浴により補っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアの協力によりクラブ活動として定着している書道・歌・フラワーアレンジメント・ペン字とともに囲碁・園芸・裁縫・塗り絵・折り紙等において、入居者それぞれが関心のある楽しみ事に参加できるよう支援している。個々の役割として自主的にテーブルふきや洗濯物たたみ等の家事を行う入居者も見られる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	限られた入居者ではあるが、近隣周辺の散歩が日課の人や週に1回程度の食材の購入の為に買物はあるが、入居者のADLの低下もあり、日常での気軽な外出の機会とは言いえない。		定期的な行事の中での外出を実施していくとともに、日常の暮らしで外気に触れ五感の刺激となるの為に、ホーム周辺での日光浴や気軽な散歩等を検討することが望まれる。地域のボランティアや家族の協力・職員の勤務体制の調整等の工夫を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設内の玄関・エレベーターは施錠は行われず、入居者の自由な行動をなるべく制限しないよう努めている。入居者の不穏な時期に安全の確保のために一時的に施錠する場合は、家族への説明と同意のもとに行うよう配慮し、速やかな解除を心掛けている。身体拘束廃止委員会が中心となり学習会等を実施し職員の理解を深めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特養とともに年に2回入居者も参加し夜間想定も考慮した消防訓練を行っている。地域の防災コミュニティの協力にて施設内で避難訓練やAED講習を行っている。運営推進会議の参加者の協力を得た防災対策が出来ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会議にて栄養バランスや入居者の嗜好等について栄養士と検討する機会があり、状況に応じた変更が可能である。個々の入居者の食事量・水分量をチェックし記録している。看護師の協力のもと血液検査等の結果を参考に、入居者の健康状態を把握し栄養状態の管理に反映させている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりした共有空間の中では、華美にならない程度に季節感や生活感を取り入れ、温度や湿度・換気について、入居者の状態を見ながら適宜調節している。ユニット毎にそれぞれの入居者の心身の状態に配慮し、家具や衝立・ソファ等の設置の工夫を検討する事で、それぞれの入居者が皆と過ごしたり一人でくつろいだりできるよう、場面作りに取り組んでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の思いに沿って馴染みの家具や装飾品が持ち込めるよう配慮し、ゆったりとその人らしい時間が過ごせるよう支援している。居室内でも共用の場と同様に温度調節や換気に配慮し、体調管理への気配りがある。		

 は、重点項目。